

# 茅 風

— Breeze from the field of thatch-grass —



2011 年 12 月 20 日  
森林塾青水  
事務局便り  
茅風通信 35 号



10 月 23 日、再開の年から数えて 8 回目の茅刈り。

- ◆9 月～11 月の活動報告（事務局）……………1  
□第 1 回東京学習会「ミズナラ林の保全と活用」(稲貴夫)……2  
□ミズナラ林の利用活動と野点と星空ウォッチング……………2  
・寒さに向かう上ノ原で(尾島キヨ子)  
・利根川つながりのご縁(前川 清)  
・素敵な野点、岡田先生に感謝です(林 勉み子)  
■特集:秋の茅刈りと茅刈り検定……………4  
・今日は『ロッジとんち』の中島真人と申します(中島真人)  
・茅刈り体験を終えて(武藤弘毅)  
・自分がとても小さな存在だと感じました(豊川 尚)  
・上ノ原茅刈りの感想(何 銀春)  
・はじめての茅刈り体験(別納彩子)  
・茅刈り検定:茅刈り士補2名誕生(草野 洋)  
□『オンパク』オープニングは上ノ原の茅刈り!(事務局)……7  
◆藤原の“ほっと”ショット・コーナー①(中島智子)……………8  
□編集後記～塾長のつぶやき～……………9  
◆1 月 29 日・第三回東京楽習会案内……………10

## ■ 9 月～11 月の活動報告とトピックスあれこれ

事務局

- 9 月 4 日:今年度 1 回目の東京学習会「ミズナラ林の保全と活用」を中央区・女性センター「ブーケ」にて開催。講師は草野塾頭、参加 14 名。(→2 頁ご参照)
- 9 月 24 日～25 日:講座「コモンズ村・ふじわら」開催。参加計 26 名(地元・日帰り 11 名)。船橋からベイプラリアソシエイツ・大野会長以下 5 名をお迎えし、キノコ原木の伏せ込み、割り薪用ミズナラの伐採や野点、星空観察会、など上ノ原の秋を満喫。(→2～4 頁ご参照)
- 10 月 14 日:「第 9 回全国草原サミット・シンポジウム in みなかみ」の第 1 回検討会。於いて、みなかみ町場。北山、清水が出席、これまでの情報提供と助言。
- 10 月 15 日:宝台樹民宿組合主催「秋の健康ハイキング」で芦ノ田峠と青木沢峠のフットパス歩き。吉野(一幸)幹事、中島(真人)会員、清水がガイド役を務める。
- 10 月 22 日～23 日:講座「コモンズ村ふじわら」開催。参加 46 名(地元 7 名、町役場 4、町田工業 2)で茅刈りと茅刈り検定。日本茅葺き文化協会の安藤先生上野理事と筑波大学生の皆さんや福島県佐久間建設の遠藤部長たちも遠路はるばるご参加。皆で力を合わせて刈り取った茅は 350 束。全量、将来の諏訪神社屋根替え用に地元・藤原区に寄贈。茅刈り検定は 4 名がチャレンジ、うち 2 名が「茅刈り士補」に！久さん、三郎さん、萬枝さん、惣一郎さん、親男さん、續さん、ご指導ありがとうございました。(→4～7 頁ご参照)
- 10 月 29 日:世界遺産の地・五箇山での日本茅葺き文化協会主催「茅刈り体験ワークショップ」にて当塾の活動報告。題して、「茅場の再生と活用」。(北山、清水)
- 11 月 12 日～13 日:講座「コモンズ村ふじわら」開催。参加 13 名(日帰り 2 名、地元 3 名)。茅の運び出しと割り薪づくりと「山の口終い」。併行して、地球環境基

金から 4 名の皆さまをお迎えし、活動報告と現地ヒアリングの後、ステップアップのためのご助言をいただく。

- 11 月 16 日:群馬県初のオンパク(温泉泊覧会)のオープニング・プログラム「茅刈り体験」が上ノ原で開催されました。これに、藤原小中学校「育成会」の有志ほか 9 名が合流、参加。早くも薄化粧した茅原に、カラフルないでたちのヤング連(?)の歓声が木霊しました。(→7 頁ご参照)
- 11 月 17 日:みなかみ町役場に岸町長訪問。関係各課長方ご同席のもと、2011 年の活動実績報告と第 9 回全国草原サミット・シンポジウムの開催計画・骨子、などにつき打合せ。(北山、清水) 同日、商工会・山田局長を訪問、同様の報告と協力方お願い。
- 11 月 26 日:今年度 2 回目の東京学習会「明治神宮の森に学ぶ」を開催。参加 19 名。稲幹事のお計らいで、神宮警衛管理課の沖沢幸二主幹に森内を隈なくご案内いただく機会に恵まれ、学ぶ所極めて大でした。
- 11 月 30 日:みなかみ町役場にて第 9 回全国草原サミット・シンポジウムの打合せ会議。浅川、北山が出席。

茅ボツチを引き出す三郎さん





## ■東京学習会「ミズナラ林の保全と活用」 (2011年度・第1回)開催報告 稲 貴夫

本年度第一回目の東京学習会が、9月4日(日)午前10時より、中央区の「女性センターブーケ21」視聴覚室を会場に、会員会友他14名が参加して開催されました。この日の講師は、本会の草野洋塾頭です。塾頭は「ミズナラ林の保全と活用」をテーマとして、自らの林業(山)との出会いから講義をはじめました。草野塾頭は熊本県葦北郡の山村に生まれ、林業を営む父親の背中を見ながら育ったということです。生まれてすぐ



に森林・林業と出会った塾頭は、やがて農林技官として林野庁に入り、以来、40年にわたり、森林行政の最先端で勤務をされてこられました。赴任地は九州・大崩山、屋久島、木曾・赤沢、信州上小地方・伊那遠山郷、利根川水源、北海道などの国内のみならず、フィリピン・ルソン島のパンタパンガンにも、日本による海外支援のスタッフとして赴任しました。現地では、スペイン統治時代に禿山となった一万ヘクタールに及ぶ地域の森林復元に取り組み、森林再生のための技術的基盤と成果を現地に残してこられました。

そうした豊富な経験をもとに、草野塾頭は上の原二次林の保全と活用について解説しました。まず、現在の二次林をカラマツ造林地に若齢のカエデ類が優先している「二次林下部」、成熟したミズナラが優先する「二次林上部」、ススキ草原と接する「林縁部移行帯・



流路沿い低木部」の3タイプに区分した上で、これからの新たな目的と取り扱いとして、ススキ草原と相まった「生物多様性を維持・増進するための取り扱い」、森の力と暮らしとのかかわりを伝える「自然環境教育・自然ふれあい等のフィールドとしての取り扱い」、藤原地区のペンション等に「小木質エネルギー資材と山の恵みを供給し地域経済に貢献する取り扱い」の3点を掲げました。上の原のススキ草原は、既に火入れと茅刈りが復活し、草原の管理と萱の利用について道筋が見えつつありますが、ミズナラ二次林の保全と活用は、本会が次のステップに進んでゆくための重要な課題と言えます。草野塾頭は最後に、「先人栽植後人亦涼」という言葉を引用して、講義を終えました。

質疑応答の後、最後に清水塾長が、上の原を舞台とする現代版入会慣行や流域コモンズの実現に向けて、それぞれの参画を呼び掛け、学習会は終了しました。

## ■ミズナラ林の利用活動と 野点と星空ウォッチング

9月24日～25日開催の講座「コモンズ村・ふじわら」2011⑤。今年度から意識的に取り組み始めたミズナラ林の利用活動の一環として、割り薪づくりとナラ枯れ対策を兼ねた高齢木の伐採やキノコ原木の伏せ込みを行ないました。初めての試みでしたが、パイプラインアソシエイツの皆さんをお迎えして野点や星空ウォッチングも楽しみました。(編集部)



### ◆寒さに向かう上ノ原で

尾島キヨ子

上ノ原4回目の尾島さん。キノコ原木の伏せ込みやミズナラ伐採・玉切りなどを体験されてのご感想です。(編集部)

ススキ草原へは今回で4度目。当然テントが張られ、地元の人や先着の人がいるものと思っていたが、そこには 既に白い穂をなびかせている緑のススキ原が広がっているのみで、私達が一番早い到着でした。目を引くのは根を見せて横倒しになった白樺の木です。入り口に一本で立っていて支えあう仲間がなく、台風で倒されたのでしょうか。





集合したのは青水メンバー、利根川から分かれた江戸川河口の船橋市ボランティアメンバーの15人。昼食後、ススキ草原の上の雑木林へ。昨年倒したミズナラをホダ木にして、椎茸、なめこ、平茸、クリ茸と店頭の菌コマの全種を買ったのかと思える程多種の菌を打ち込んで仮伏せしてありました。それをきのこの種類によって鑑伏せ、地伏せにします。太いの細いの合わせて300本程ありました。場所は『直射日光が当たらず、風通しが良い所』なのですが、きのこ栽培は数ヶ月の事ではなく、夫々の季節を経る長期間の事なのです。山中での場所選定は経験があったりその土地を知っている事が重要です。後、数人で山葡萄の様子を見に行きました。木はあっても実は殆ど見当たらず、漸く見つけたのが高所で、3人がかりで蔓を引っ張りやっと一枝採りました。帰りがけカラマツ林を通りきのこを探しましたが、数本あっただけで“食べる”という量まで行きませんでした。

集合場所に戻り野点のお茶を頂いた後、民宿に移動の途中で古民家見学。一箇所は若い家族が既に改修して住んでいる平屋。玄関から中を見せてもらいました。床はきれいに張り替えられピアノが入れられ、むき出しの梁からはハンモックが下がっています。軒下には薪が半分程積み上げられ、庭には薪割の道具がありました。もう一箇所は青水が借りてこれから改修しようというトタンを被せた茅葺きです。玄関からすぐ囲炉裏のある広い板の間があり、スリッパを履いて踏みぬかないように中へ。隣の部屋は畳が上げてあり、床板は折れている処も。押入れにはまだ荷物があり、納戸には味噌樽と思しき大きな樽もありました。改修には多くの費用と知恵が必要であり手間もかかるでしょうが、始まったら参加したいものです。

二日目、ミズナラ伐採。舗装道路から雑木林に道を作りながら入りました。予め印をしておいたミズナラをチェーンソーで倒します。5、6本倒したのですが、中には径50センチ程のものもあってその倒れる様子は壮快です。これらは倒したまま乾燥させるのですが、葉が付いていた方が早く乾燥するからだそうです。中1本は薪用に運び出す為70センチ程に切り揃えたのですが、

これが唯一鋸を使った仕事らしい仕事でした。薪の運び出し、道具運搬に動力付きの一輪車を使ったのですが、初めて見ました。斜面やデコボコのある山では便利なものだと思います。

カヤ草原に茅葺。雑木林、ホダ木、薪。これらの言葉は地域に様々な材料があり、住居、燃料、食料等が賄われ、地域で完結する事を連想させます。自然からの材料を使えるまでにするには知識、技術が必要であり、それは頭と身体を同時に使わなければならない事が非常に多いと思います。頭と身体を同時に動かす事が人本来の姿だと思うので、自身のこういう能力を目覚めさせる機会は大事にしたいと思いますし、次世代にも機会を与えたいと思います。

#### ◆利根川つながりのご縁

前川 清

三番瀬をベースに「海を活かした町づくり」に取り組むベイプランアソシエイツの皆さん。前川さんに代表選手をお願いして、ご感想をいただきました。(編集子)

○東京都民で学生の時分、上野発の上越線夜行スキー列車で石打や湯沢へ行っていた頃、トンネルを抜けると『白銀一色の別世界』を何度も経験していました。9月24日、東京駅発の新幹線で私達ベイプランアソシエイツ(BPA)大野一敏会長はじめ5名で参加。最寄駅の上毛高原駅まで72分の近さ！ 時代の変化を感じた次第です。会場の『上ノ原』北側は利根川の源流域だそうで、千葉県民の私にとって親近感が湧いた次第です。

○この利根川を下った千葉県関宿町の閘門から流れる約50kmの江戸川が東京湾へ流れています。BPAは、この東京湾最奥の船橋漁港や前面に広がる貴重な干潟「三番瀬」をベースに『海を活かした町づくり』をテーマに活動しています。

○上ノ原の秋、透明感のある清々しい朝。ミズナラ林伐採作業の専門家の方々から説明を受け、素人の私でも出来る小作業につきました。作業のスタートは樹木の伐採からで、職人さんの心得たチェーンソーの音が、山に響きわたり、気持ちよく作業が進められました。緩やかな斜面の伐採された空間に、太陽の光が入った風景は、西洋絵画を見る思いがして感激いたしました。





## ◆素敵な野点、岡田先生に感謝です 林 勉み子

野点を共に楽しみいただいた地元の勉み子さん、フミ子さん、武子さん、智子さん。勉み子さんから、俳句入りのお便りをいただきました。(編集子)

素敵な野点 有難うございました。あの日の帰り、フミ子さん、武子さん、智子ちゃんたちは私の処に二次会のように途中下車。興奮さめやらぬかの様に、楽しかった、良かったね、と。

先月私が「千歳会」の旅行で買って来たブルーベリーのジュースで乾杯しました。すっかり、岡田先生の気安く教えて下さるお人柄に皆惚れ込んでしまいました。今後も機会が有ったら いろいろ教えて欲しいね、茶筌で泡が立てられた時は嬉しかった、とフミ子さん。

古民家でお茶を頂けたらいいねと、智子ちゃん。お茶は機会がなくて初めてと喜んでくれた武子さん。

まさかコモンズ村に、暖簾やお茶のお道具まで設えて有るとは驚きでした。今思っても夢のような楽しいひと時でした。本当に岡田先生には感謝です。有難うございました。

- |                  |     |
|------------------|-----|
| * 芒野にお茶会作法うさぎ餅   | 武子  |
| * 作業終え芒の原の野点かな   | 武子  |
| * 草笛や子に残したきこの山河  | 勉み子 |
| * 花野来て両手に受けし野点かな | 勉み子 |



## ■特集：秋の茅刈りと茅刈り検定

10月22日～23日開催の講座「コモンズ村ふじわら」2011 ⑥。恒例となった秋の茅刈りと第2回当塾オリジナル「茅刈り検定」を行ないました。多数の参加者の中から5人の皆さまの茅刈り体験記と検定結果の報告です。(編集子)

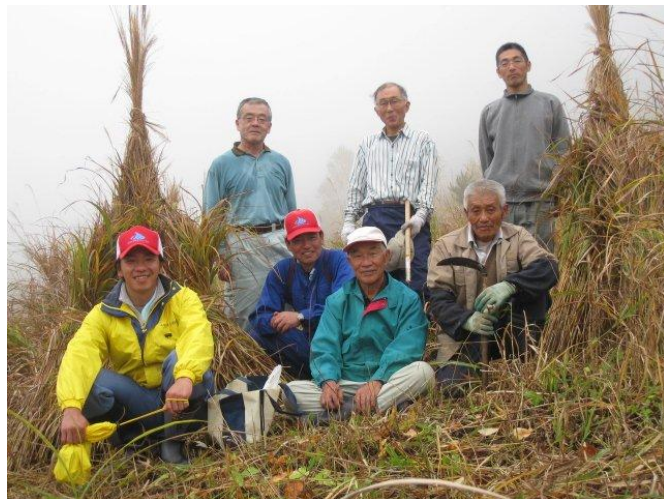
## ◆今日は『ロッジとんち』の中島真人です 中島真人

ロッジ「とんち」の2代目。当塾の熱心な地元会員でもあります。なんと、初めての茅刈り体験でした！(編集子)

こんにちは『ロッジとんち』の中島真人と申します。  
森林塾青水の活動には去年から参加させてもらって

いますが、茅刈りは今回が初めての参加でした。藤原に住んでいるのに、茅刈りの経験が無く、また刈った茅の利用方法もほとんど知らなかったのが、今回の活動や交流会は僕にとって新鮮であり、楽しいものでした。阿部惣一郎さんや雲越万枝さんが行う茅刈りのデモンストレーションは、無駄な動きが無く、どの動作も次へつながる一連の流れになっており、「これが地元藤原で培った業なんだ！」と驚嘆させられるばかりでした。

昨年上ノ原で刈った茅を福島県の仮設住宅の屋根断熱材として利用して頂くため、日本茅葺き文化協会の上野さんを通じて今年の7月に茅の引渡しのお手伝いをさせて頂きました。そして、今回の上ノ原の茅刈りに



日本茅葺き文化協会の方々をはじめ、福島の業者さん、多くの学生の方々にも参加して頂いたことで、茅刈りを通じて人と人の繋がりができていること、また藤原の魅力を皆さんに少しでも知ってもらえたことがとても嬉しかったです。

これからも、森林塾青水で学びながら藤原の魅力を発信していければと思います。

## ◆茅刈り体験を終えて

武藤弘毅

曾祖父が茅葺き職人であられた佐久間建設工業の武藤さん。大震災被災地・福島から遠路はるばる5時間かけて、「カヤの恩返し」と駆けつけて下さいました。(編集子)

10月22日23日の二日間、茅刈り体験に参加させていただきました。上ノ原の茅場に着いた時に見た、見どころを迎えた紅葉の山々を背景に、霧が立ち込めた中で皆さんが黙々と茅を刈りこんでいる幻想的な作業風景が思い出されます。

我々佐久間建設工業がいわき市と会津若松市に施工いたしました仮設住宅の断熱材として、上ノ原で刈りこんだ茅を頂きました。貴重な茅を頂いたお返しとしての労働を頭の中にイメージして藤原地区・上野原に向かいましたが、その時は茅場でこんなにも充実した中身の濃い経験ができるとは思いませんでした。





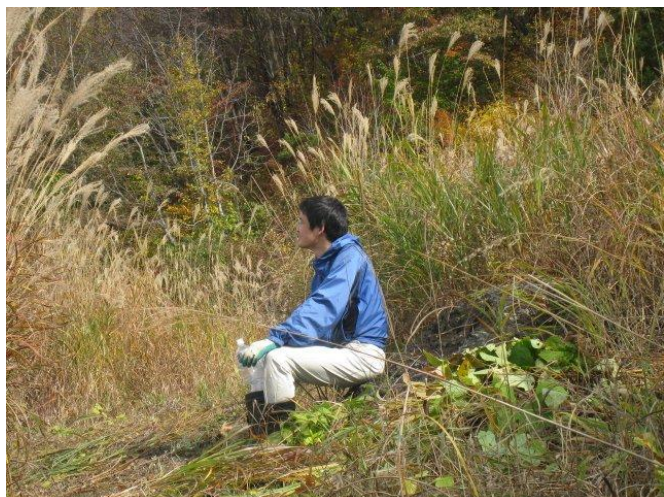
自然や生態系を見つめる面白さ、建築の材料として、茅の可能性を探る視点、人と人とのつながり、地元のおいしい食事など、非常に多様なおもしろさ感じる事ができた茅刈りのイベントは、今後も仕事の都合がつけば、是非参加させていただきたいと感じました。なにより、私の曾祖父が茅葺屋根を葺く職人だったという経緯もあり、私の先祖も同じような作業をしていたと思うと、茅を鎌で刈りこむ際のザクザクとした感触が私の中のDNAの記憶を呼び起こすかのようなそんな貴重な体験ができました。

茅を見る目が自分の中で確かに変わった有意義な二日間でした。ありがとうございました。

#### ◆自分がとても小さな存在だと感じました 豊川 尚

筑波大・大学院生(人間総合科学研究科)の豊川さん。「茅刈りをしていた村人の気持ちが知りたくて」参加されました。(編集子)

茅刈りをしていた村の人々はどんな気持ちだったのかが知りたくて、茅刈り体験に参加しました。体験が始まると、鎌の研ぎ方や茅の刈り方、ボッチの作り方に至るまで新しい事ばかりで、夢中になって作業が出来ました。しかし、途中から腰や腕、肩など体のあちこちが痛み始め、話すのも面倒で笑顔が無くなり、地面を這



いつくばりながらただ黙々と茅を刈るだけになってしまいました。そんな苦しい作業に耐えられず、手を休めてふと目を上げると、実りの秋を迎え紅葉した山々が目に入りました。そのとき改めて、自分がそのような美しい山々に包まれていることを実感するとともに、自分がとても小さな存在だと感じました。それは嫌なものではなく、むしろ清々しい気持ちでした。茅刈りがもっと日常に近かった当時の村人の中にも、自分と同じような気持ちで故郷の山々を眺めた人もいたのではないかな。そんなことを思いながら、茅を刈り続けました。

#### ◆上ノ原茅刈りの感想

何 銀春

何さんは中国からの留学生。筑波大学で「世界遺産」を専攻されています。可能な限り、原文に忠実に掲載させていただきました(編集子)

上ノ原の茅刈りから戻って、もういつの間にか一週間経ちました。二日間の短い期間でしたが、感想がいっぱいになりました。皆さんに初めてお目にかかって、茅刈りについて御紹介していただいたことを今もはっきり覚えています。日本語がまだ下手ですから、わからないことが沢山ありますが、皆様の真面目な顔から文化財を守る心をだんだん了解し始めました。地元のお爺さんから鎌研ぎ、茅刈り、ボッチにすることについて、いろいろ教えてもらいました。初めて茅刈りしたことをはっきり覚えています。易しいようでも、実は刈る技法も必要です。皆様が汗をぬぐうと雨になって茅刈りしている様子を見ると、これは文化財を守る仕事の「千里の一步」だと思いました。その後の交流会で分野の違った皆さんと一緒に話していると、文化財を守る感心が同じところがたくさんあると思いました。特に、清水さんと「飲水思源」の言葉を検討し、地元のお爺さんと中国の李白さんの詩を暗唱したときは、本当に感動しました。

最後に地元の人や皆さんのご指導に感謝したいと思います。皆さんの友好と素直さをしみじみ感じました。日本の文化財を守ることを心よりお祈りします。





麗澤中学の樹木観察会を共同して受託している日大・生物資源学科の学生諸兄。大挙10名の参加者のリーダー・別納さんのご感想です。(編集子)

今回、私たち日本大学の学生は、森林塾青水さんのお陰で初めて茅刈りという貴重な体験をすることができました。茅刈り体験に参加するまで、私は茅を刈るどころか鎌を使った経験さえありませんでした。そのため、茅はどんなものなのか、鎌はどうやって使うのかさえイメージできていませんでした。

茅刈り体験で最初に体験したのは、鎌研ぎでした。全員鎌研ぎは初めてだったので、どう研いだらいいかわからず、戸惑ってしまいました。鎌の研ぎ方は、包丁と違って砥石を動かす研ぎ方だったので不思議な感じ



がしました。講師の方のお手本を見ながら研いでいきましたが、危ない持ち方をしてしまったたり、なかなか上手に研ぐことができなかつたりして、講師の方に何度もご指導いただきました。講師の方が丁寧に指導していただいたおかげで、しっかりと鎌を研ぐことができました。次に、研いだ鎌を持って茅の生えている場所へ行きました。実際に茅を見て驚いたのは茅の高さでした。私達は、茅がどのようなものなのかイメージが曖昧だったので、自分たちの身長よりも高く伸びている茅が非常に強く印象に残りました。茅の刈り方も講師の方にお手本を見せていただきました。始めのうちは全員力任せに鎌を引っ張るだけだったので、なかなか茅を上手く刈ることができませんでした。しかし、講師の方に下から斜め上へ鎌を引くとよく切れると教えていただき、そのとおりやってみると、茅はバリっという気持ちのいい音を立てて切れました。茅を刈ると、今度は茅を束にしてぼっちを作っていました。ぼっちを作る時、茅の束の抱え方や結び方が思ったよりも難しく、私たちはぼっちを作るのに苦労しました。そんな私たちとは違って、講師の方は一人で次々とぼっちを作っていたので、すごいなと思いました。悪戦苦闘しながらも、講師の方にアドバイスをいただきながら何人かで協力して何とかぼっちを作ることができました。初めてぼっちを作れた

ときは達成感でいっぱいになりました。ある程度慣れてきた後はどんどん夢中になっていき、みんなで必死にぼっちを作っていました。朝の9時に鎌を研ぎはじめて、お昼頃まで茅刈り体験をしました。あっという間に終わりの時間になってしまったと感じました。私たち何人かは、もう少し茅を刈っていたかったという話をしていたほどでした。

茅刈り体験が終わったあと、森林塾青水のみなさんや他の参加者のみなさんとレストラン幸新でお昼ご飯をいただきました。幸新さんでは、水上の食材を使ったお料理を出していただきました。とてもおいしかったです。

体験を終えた時、私たちの刈った茅も屋根や断熱材として使われるのだろうかと考えてみると、とても不思議な気持ちになりました。それは、今まで茅に使い道はないと思っていたからです。身近にある資源に自分で手を加えて生活に利用することは、普通に生活しては経験できません。このような体験は私たちだけでなく、もっと多くの人に体験してみしてほしいと思いました。

茅刈りは私達にとって初めての経験で、非常に難しかったです。講師の方々のお手を煩わしてしまうことも多かったと思います。しかし、丁寧に指導いただいたおかげで茅刈りの楽しさを体験することができました。また、身近な資源を有効に活用することの大切さを感じることができました。貴重な体験をする機会をくださった森林塾青水さんには、とても感謝しています。本当にありがとうございました。4月の野焼きにも参加させていただく予定です。学生一同とても楽しみにしています。今後よろしくお願いいたします。

## ◆茅刈り検定で茅刈り士補2名誕生

草野 洋

今回で2回目となる2011年度の茅刈検定が、10月22日、「コモンズ村ふじわら」の茅刈の中のプログラムとして行われました。当日検定を希望したのは4名、検定者、林三郎師、アシスタント草野のもと検定に臨みました。







まず、師のカマ砥ぎ、茅刈を見て、それぞれがまだ初霜もない暖かすぎる気温の中、1時間の茅刈となりました。今年の茅は生育があまり芳しくなく、キツネ茅や雑草が多く、それらの除去に苦労しながら束、そしてボッチを作り上げていきます。検定項目は、カマの使い方や腰つきなどの安全面、カマの音、束やボッチの大きさ、形、結束の仕方、1時間あたりのボッチ数など17の項目で判定されます(詳細は昨年の報告を参照)。



その結果、当会の正会員である初挑戦の川端さんと再挑戦の安楽顧問がめでたく茅刈士補に認定されました。また、他の2名の方は茅刈士心得と認定され、後



日、別添の町田検定委員長の認定書が送られました。これで茅刈士補は昨年3名に加えて5名になりました。会員の中から茅刈士補が、3名になりました。お二人ともおめでとうございます。目指せ 茅刈士！！



■『オンパク』オープニングは上ノ原の茅刈り！  
—藤原小中学校「育成会」の有志9名も参加—

群馬県初の温泉泊覧会『オンパク』in みなかみ町が11月16日から12月11日間の予定で始まった。『オンパク』とは、地元の人が地元の人を案内して、みんなが





自分が住む町を好きになるための小さなプログラムの集まり。町中のみinnで知恵を出し合って作ったプログラム 28 の皮切りはなんと、上ノ原「入会の森」の茅刈りだった。



当日・16 日朝は、まだ前夜の雪が残り開催が危ぶまれたが、町内各地から集まった参加者 40 名余のやる気につられてお日様が笑顔を出してくれ、予定通りの開催となった。実行委員長・深津卓也氏(辰巳館社長・森林塾青水の協賛会員)の開会挨拶「これまでのイベントは首都圏の観光客が対象だった。しかし、町の宝物を住民が知れば、町への愛着が高まり、町の活性化につながる」が心に強く響いた。

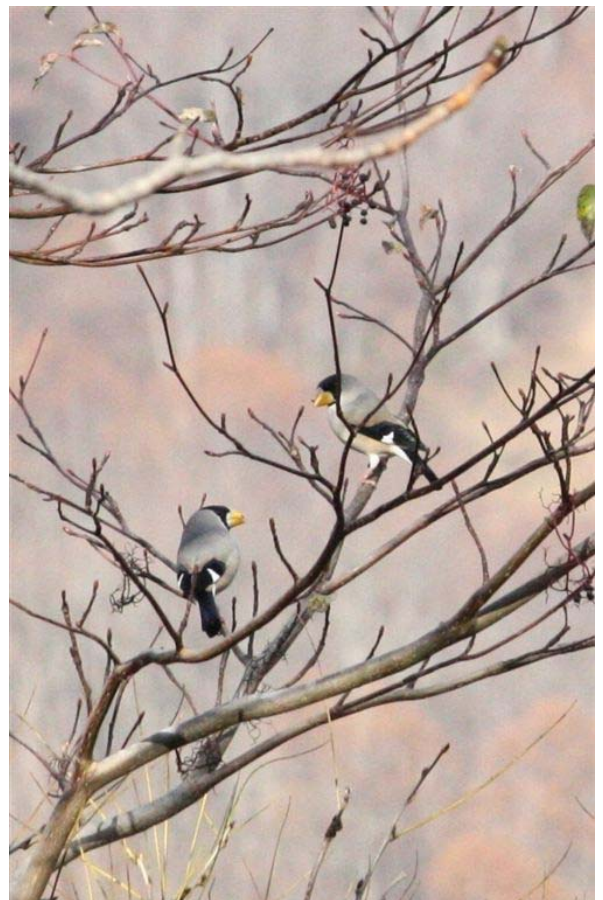
先ずは、当塾の茅刈りイベントと同様、鎌砥ぎ実習から開始。あとは、茅場のあちこちに散らばって、地元の久さん、親男さん、續さんの手とり足とりのご指導のもと刈り取りと結束の作業。吉野一幸さん(当塾・地元幹事)の呼びかけに応じて参加した藤原小中学校「育成会」のヤングパパ・ママさん 9 人や並木荘の秀徳さんご夫妻たち地元・藤原衆も、初めての茅刈りに夢中になって鎌をふるっていた。

終了後は、遅れて駆けつけた岸町長ともども広場の焚火を囲み、焼きリンゴや原木栽培のナメコ汁に和気あいあい舌鼓を打った。遠望する谷川岳の冠雪が、いつにもまして美しく爽やかだった。(清水、記)



### 藤原の“ほっと”ショット・コーナー①

今号から初登場の写真コーナー。見て“ほっと”するような“photo”(写真)をお届けします。すべて、藤原で撮影された動物写真ばかり。ご提供いただくのは、地元・大芦の中村智子さん。野鳥など生き物の写真が大好きで、その腕前は玄人はだしです。フットパス歩きや野点など、当塾の活動にも積極的に参加して下さっています。(編集子)



11月15日。今朝は寒かったのですが、日が射してました。で、いつものように散歩に行き、この頃よく見かけるイカルを撮りました。場所は大芦、とまり木はミズキです。(智子)



## □ 編集後記 ～塾長のつぶやき～

○今年の収穫～新たな利用の道が拓けたこと 上ノ原「入会の森」の再生・活用に取り組んで8年目。今年もいくつもの収穫があった。元・茅場のススキが仮設住宅の屋根断熱材になり、ブルーベリーや野菜のマルチ材・肥料としても使ってもらえることになった。元・薪炭林のミズナラム、ナメコの原木やストーブ用の割り薪になったりした。(3頁ご参照) 十郎太沢の水を生かした野点や草原に寝ころんで星空ウオッチングを楽しみたい、といった小さな夢もかなった。(4頁ご参照)



いずれも、地元ならびに町役場の皆さま方のご指導ご協力お陰さま。感謝して、向後の継続・定着を誓いたい。

○嬉しかったこと～新たなつながりの芽生え 今年も、他団体・NGOとのコラボレート活動が続き、新たな連帯の芽生えがあった。6月の「のらえもん」ご一行、8月の早稲田環境塾、9月のパイプラン・アソシエイツ。10月には、日大・生物資源学部の皆さんと安藤先生率いる日本茅葺き文化協会・筑波大・佐久間建設のグループ。さらに、11月には地元の皆さんが参加された『オンパク』茅刈りと続いた。その顔ぶれや居住地、参加のきっかけから言えることは、「利根川つながり」であること。そして、「大震災つながり」「飲水思源つながり」でもあることだ。(4～5頁)

因みに、茅葺き文化協会・上野理事に全国草原再生ネットワーク総会場でご面識を得たのは6月11日、上ノ原の茅ストックが福島仮設住宅建設現場に向かったのが7月7日、安藤先生たちがご恩返しにと茅刈りに参加されたのが10月22日～23日、小生が五箇山「茅刈りワークショップ」にお招きいただいたのが10月29日～30日。僅か5ヶ月足らずの間に、密度の濃い交流が重ねられた。



天恵あるいは神の思召しとしか言いようがない。このつながりをお導きいただいたのは、十二神様のお一人たる加屋野姫神さまに違いない！

コラボ活動にお付き合いいただいた各団体・NGOの皆様とご縁をとりもって下さった加屋野姫神ならびに全国草原再生ネットワークの高橋佳孝会長に、改めて『飲水思源』を奉じて感謝申し上げつつ、このつながり・絆を大切に継続し、さらに強固なものにしたいと念じている。

○大震災に思う～生かされてある身の程忘るまじ 茅葺き文化協会とのご縁をとりもっていただいたのは高橋会長であるが、同協会とは大震災がとりもつご縁、つまり「大震災つながり」でもある。

此度の震災は忘れてならない天災・自然災害であり人災・文明災禍でもあった。今年は『忘年会』ではなく『反省会』であるべき、など思いつつあった11月4日、神仏習合の聖地・高尾山薬王院を訪ねた。鎮魂の護摩焚き祈願をして、精進料理をいただいた。ご利益あってか、素晴らしい訓えに出会った。

人と山河は共にある

人濁れば山河濁り

人清ければ山河清し

当院34世貫主・大山隆玄師のお言葉の由。これだと合点し、ずっと昔詠んだ拙句を思いだした。

傲慢の世紀の果ての枯野かな

「万物の霊長」とは名ばかりにて、自然に生かされてある分際を忘れ、神の住まう山河を踏みじり征服してきた傲慢さ。ついには、「原発安全神話」まで創ってしまった不遜の極み。犠牲となった被災地の人々には気の毒の極みで申し訳ないが、同じく犠牲になった巨億の生き物たちの生命を不憫に思うヒト(人)はほとんどいない。生き物たちの生命を有難く「いただく」のは精進料理をいただく時だけの話ではなく、一年365日毎日毎食のことであつたはずなのに、愚かにも忘れてしまったヒト(人類)。大量生産・消費・廃棄、快適・便利を追求し、他を顧みない身の程知らずの所業の数々。地球の「環境容量」をはるかに超えて、はびこり過ぎた挙句の果ての(人類全体に対する)天誅、と言われてもいたし方あるまい。後日、隆玄師の教えに以下4行を付け足させてもらった。

人貪れば自然滅す 自然滅せば人滅す

人驕れば天地壊れる 天地壊れば生類滅す

大震災は、新しい文明と暮らしのあり方を問うている。まずは、生かされてある身の程を噛みしめることから始めるべきではないか。自然という「環境容量」に配慮した産業・経済・社会インフラ。身の丈の暮らしを旨としつつ、慎ましくもこころ豊かな生活を心がけたい。周回遅れのトップランナー、ブータンやコスタ・リカに学ぶべし。忘れてはならない2011年。そんなことを思いつつ迎える年の瀬となった。

楽しみは 朝起きいでて

昨日まで 無かりし花の 咲ける見る時

小生の好きな橘曙覧『独楽吟』より。

(青)



## 2011 年度第 3 回東京楽習会

# 「茅葺き文化の継承とこれからの茅葺き」

今年は新燃岳の噴火にはじまり、3月11日には東日本大震災が発生、そして9月には台風12号、15号が相次いで上陸する等、自然の力の凄まじさと、自然に対する人間の対応のあり方について考えさせられた一年でした。来年が良い年であることを祈りつつ、第三回東京楽習会のご案内をいたします。ふるってのご参加をお願いいたします。

**開催日時 1月29日(日曜日)**  
**午前10時～正午**

**開催場所 中央区銀座 4-13-17「銀座区民館」4号室**  
東京メトロ日比谷線東銀座駅下車 5番出口徒歩2分  
都営地下鉄浅草線東銀座駅下車 3番出口徒歩2分  
(今回の会場は「女性センター」ではありません。ご注意ください)



### ●楽習会内容

来年の秋には、いよいよ全国草原サミットがみなかみ町で開催されます。森林塾青水では、草原と茅の文化について、より理解を深めてゆくための機会として、来年最初の行事となる第三回東京楽習会は、会津若松に建設された仮設住宅の断熱材として、上ノ原の茅を活用する道を準備していただいた日本茅葺き文化協会理事の上野弥智代さんをお招きし、全国の茅葺民家の現況や、これからの茅葺き文化の継承に向けた課題点などについてお話を伺います。

### ●講師・案内

上野 弥智代 (日本茅葺き文化協会理事)

- 定員 20名(申し込み順受付)
- 参加費 無料
- 懇親会 終了後自由参加 場所未定

※このセミナーは地球環境基金の助成を受けて開催されます。



### ■申込み・問合せ先

森林塾青水 事務局 コミュニティデザイン気付

<http://commonf.net>

E-mail : [info@commonf.net](mailto:info@commonf.net)

TEL:03-6228-3503 FAX:03-6228-3504

ファックス又は参加申込書の内容をメールでお申込み下さい。

当日連絡先090-9292-6781(担当幹事 稲)



**申し込み期限 1月22日**

**主催 森林塾青水**